

鈴木一念 いちげん 歌人、小説家。明治二十四年一月十二日東京府南多摩郡八王子生れ、昭和二十一年十月二十日没（九十一歳）。本名金二。筆名大川徳一。次兄い洋畫家鈴木信太郎がゐる。大正四年小學校キテ、夜學に通ふ。十年ヤラギい入り、また武者小路實篤に傾倒して新しき村の村外會員になる。一時短歌から遠ざかると、友人大熊長次郎の勸めを以て再び作歌、十五年ヤラギい再入會。作歌の他小説も手ぎ染め、『友達』（昭和六年七月一日やぶん房）を刊行。同年八王子歌話會結成、會報を編輯發行。翌年歌誌『八王子短歌』創刊（十年一月発刊）。十一年又中心中を圖り、二男の命を捧げた後自らも首を吊つたが未遂、齋藤茂吉院長の青山腦病院本院に入院した。十二年退院して日本橋の寫真エース社に勤務、二男の名一念を筆名とする。十五年多摩腦病院の看護人となり、爾後雜誌『馬鈴薯』、『新しき村』等（い執筆）。

歌集の『幽蘭』（昭和十六年九月十五日八雲書林「ヤラギ叢書」）、『香水草』（昭和十六年十月二十日鈴木一念顯彰会）、『鈴木一念全歌集』（鈴木一念全歌集刊行会編、昭和二十二年六月十五日搖籃社）等。

